

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(令和2年度)

2. 分野別状況(2)地域活性化総合特区 ④観光等分野(2/4)

	総合評価 (IとIIとIIIを1:1:2の割合で計算)	I	II	III	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
千年の草原の継承と創造的活用総合特区(阿蘇市、南小国町、小国町、産山村、高森町、南阿蘇村、西原村、山都町)	3.7	3.8 進捗度 ・草原管理面積、野焼き再開 牧野数 99% ・牛馬の放牧頭数 《定性的評価》 ・観光入り込み総数、阿蘇地域の宿泊客数 《定性的評価》 ・あか牛肉料理認定店数 67% ・草原体験利用者数 《定性的評価》	3.8 地域独自の取組 ・ASO環境共生基金事業 ・入湯税込観光活用事業 等	3.5	<p>・あか牛肉料理認定店数が減少している点は残念ではあるが、一方で、認定基準の厳格な運用も重要である。昨年度実施したように、定期的な認定の見直しは必要。</p> <p>・既にエコツーリズムの観点でも先進的に取り組んでおられるが、今後こうした自然コンテンツやその文化保護活動そのものが観光におけるSDGs的価値として一層高まることが想定され、教育コンテンツへの昇華による若年層への啓発と共に、観光インフラ整備やコンテンツ開発には地域外の理解者・協力者を得ていくことが肝要である。</p> <p>・コロナ禍の影響による点は、収束後に向けてどのようなステップで進めて行きたいのか、その構築を期待。</p> <p>・阿蘇地域については国内的には一定の認知を有しており、また産品としてあか牛の消費拡大をはかる、といった点は、地域のブランド化をより一層進める重要な取り組みである。しかし、活用面で見ると、草原体験利用者数は目標が数千人、かつ近年については地元小学生を対象としたり、動植物園への出前講座など、地域への来訪者増に大きく寄与するようなものとはなっていない。結果的に、維持の負担のみが増していくことが想定されることから、活用方策については大胆な見直しを図っても良い。</p>